


くすりのしおり

注射剤

2012年07月改訂

<p>薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。</p>	
<p>商品名:カピステン筋注 50mg 主成分:ケトプロフェン (Ketoprofen) 剤形:注射剤 シート記載:</p>	
<p>この薬の作用と効果について 痛みや炎症に関与している物質（主にプロスタグランジン）の合成を妨げ、痛みや炎症を抑えます。通常、術後、外傷、各種癌、痛風発作、症候性神経痛などの鎮痛・炎症に用いられます。また、緊急の解熱時に用いられます。</p>	
<p>次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。消化性潰瘍、血液に異常がある、肝障害、腎障害、心機能に異常がある、アスピリン喘息、出血傾向がある、気管支喘息、潰瘍性大腸炎、クローン病がある。・妊娠または授乳中・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。	
<p>用法・用量（この薬の使い方）</p> <ul style="list-style-type: none">・ あなたの用法・用量は <input type="text"/> ：医療担当者記入>>・ 鎮痛・消炎：通常、成人は1回、殿部筋肉内に注射します。症状の改善が認められない場合には、1日1～2回反復注射します。 解熱：通常、成人は1日1～2回殿部筋肉内に注射します。・ 効果をみながら使用期間を決めていきます。	
<p>生活上の注意</p>	
<p>この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用） 主な副作用として、注射部位の痛み、発疹、かゆみ、消化性潰瘍、胃腸出血、貧血、血小板機能低下（出血時間の延長）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。</p> <p>まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。 このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 蕁麻疹、呼吸困難、四肢しびれ感、冷汗 [ショック、アナフィラキシー様症状]・ 皮膚や粘膜の発赤・発疹・水疱、発熱、関節の痛み [中毒性表皮壊死症]・ 乏尿（尿量が減る）、血尿、食欲不振 [急性腎不全、ネフローゼ症候群] <p>以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。</p>	
<p>保管方法 その他</p>	
<p>医療担当者記入欄</p>	<p>年 月 日</p>

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。